

今週（6月22日から6月26日）の短期金融市場動向

●無担保コール市場

無担保コールO/N物については、引き続き資金調達ニーズが旺盛な中、出会いの水準は0.97%台後半で推移した。また、地銀業態の試し取りにより、一部付利を上回る水準での出会いも見られた。

加重平均レートは、0.976~0.978%のレンジで推移しており、26日(金)も概ね同水準での取引が中心となった。

ターム物については、四半期末をまたぐ期間での資金調達ニーズが見られており、1.00~1.20%程度での引き合いが中心となった。

今週の日銀当座預金残高は、438兆円程度でスタートしたが、22日(月)に国債大量償還・利払いなどにより、443兆円程度に増加。その後は、24日(水)に5年債発行などにより440兆円程度まで減少。26日(金)は440兆円台での着地が見込まれる。

●債券レポ市場

債券レポ市場 GC T/N物の出会い水準は、概ね1.005%前後での推移となった。

SCは、ロールオーバーを中心に幅広い銘柄で取引が見られた。

●短国市場

短国市場は、3Mゾーンと6Mゾーンが堅調に推移した。

26日に実施された3M物入札は引き続き政策金利対比で強い水準で決着し、セカンダリーでは底堅く推移した。

●CP市場

CP市場は、不動産、食料品、機械など、複数の業態で大型発行が行われた。

市場残高は、24兆円台半ば~後半となった。

発行レートは、1.0%以上で推移し、銘柄や投資家の運用目線にばらつきがみられた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均株価 (円)	新発10年国債 利回り (%)	為替 (ドル/円 中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート (T+1 ON・%)	日銀当座預金残高 (億円)
6/22 (月)	72,353.96	2.670	161.57	0.977	1.000	4,430,200
6/23 (火)	69,788.38	2.675	161.60	0.976	1.000	4,427,200
6/24 (水)	69,174.97	2.664	161.63	0.977	1.000	4,398,200
6/25 (木)	72,366.34	2.624	161.74	0.978	1.000	4,403,900
6/26 (金)	69,360.88	2.595	161.83	0.977	1.000	4,400,000

翌週（6月29日から7月3日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー （※米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある。）

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
6/29 (月)				
6/30 (火)	5月の一般職業紹介状況(有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 5月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 5月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 5月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)	2Y物 7/1発行 28,000億円		6月の米CB消費者信頼感指数 6月のシカゴPM景況感指数 4月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 1-3月期の英GDP確報値
7/1 (水)	6月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50) 6月の消費動向調査(内閣府 14:00)			6月のISM製造業景況指数 5月の米建設支出 6月のユーロ圏消費者物価指数速報値
7/2 (木)	6月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	10Y物 7/3発行 26,000億円		6月の米雇用統計
7/3 (金)	7月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	TDB3M物 7/6発行 38,000億円		New York 祝日(Independence Day Observed)

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/29 (月) 日銀予想	200	3,400	3,600	国債補完供給 国債買入	800	5,600	6,400	10,000	TB3M発行▲41,000 償還47,000
6/30 (火) 弊社予想	400	4,500	4,900				0	4,900	
7/1 (水) 弊社予想	0	▲20,000	▲20,000				0	▲20,000	2Y発行▲28,000償還15,500
7/2 (木) 弊社予想	0	▲44,000	▲44,000				0	▲44,000	法人税、消費税、年金保険料揚げ
7/3 (金) 弊社予想	▲500	▲25,000	▲25,500				0	▲25,500	10Y発行▲26,000

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、引き続き堅調な調達ニーズが見込まれ、0.975~0.978%程度の出合いが中心となるとみられる。ターム物については、引き続き6月末越えを前提とした取引が中心になると見込まれる。債券レポ GC T/N物のレートは、0.95~1.01%程度のレンジでの取引を予想する。短国市場は、7月3日(金)に3M物の入札が予定されている。CP市場は、期明けの発行が予定されており、動向が注目される。

来週の主要なイベントとして、国内では30(火)に5月の完全失業率・有効求人倍率、5月の鉱工業生産、1(水)に6月調査の日銀短観、6月の消費動向調査などが公表予定である。海外では30(火)に6月の米CB消費者信頼感指数、4月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数、1-3月期の英GDP確報値、1(水)に6月のISM製造業景況指数、5月の米建設支出、6月のユーロ圏消費者物価指数速報値、2(木)に6月の米雇用統計などが公表予定である。
(※尚、米国については、政府機関閉鎖の影響に留意する必要がある)

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。